

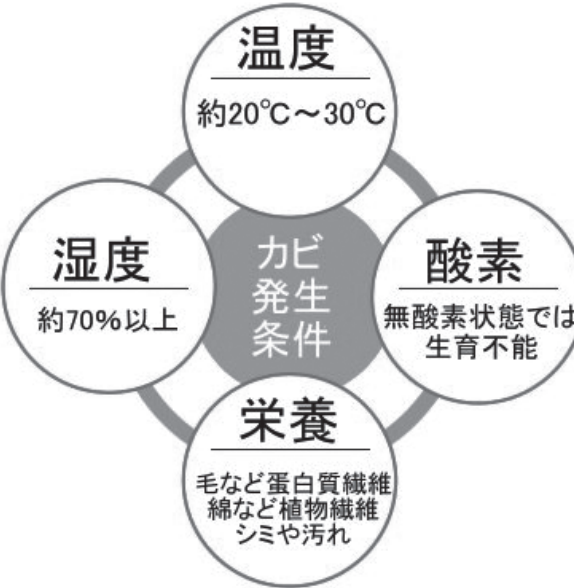
衣類のカビ対策

一般社団法人日本テキスタイルケア協会提供

養分を吸収して成長する真菌類であるカビの種類は約 70,000 種類以上もあるといわれており、日常的に空気中に浮遊しています。

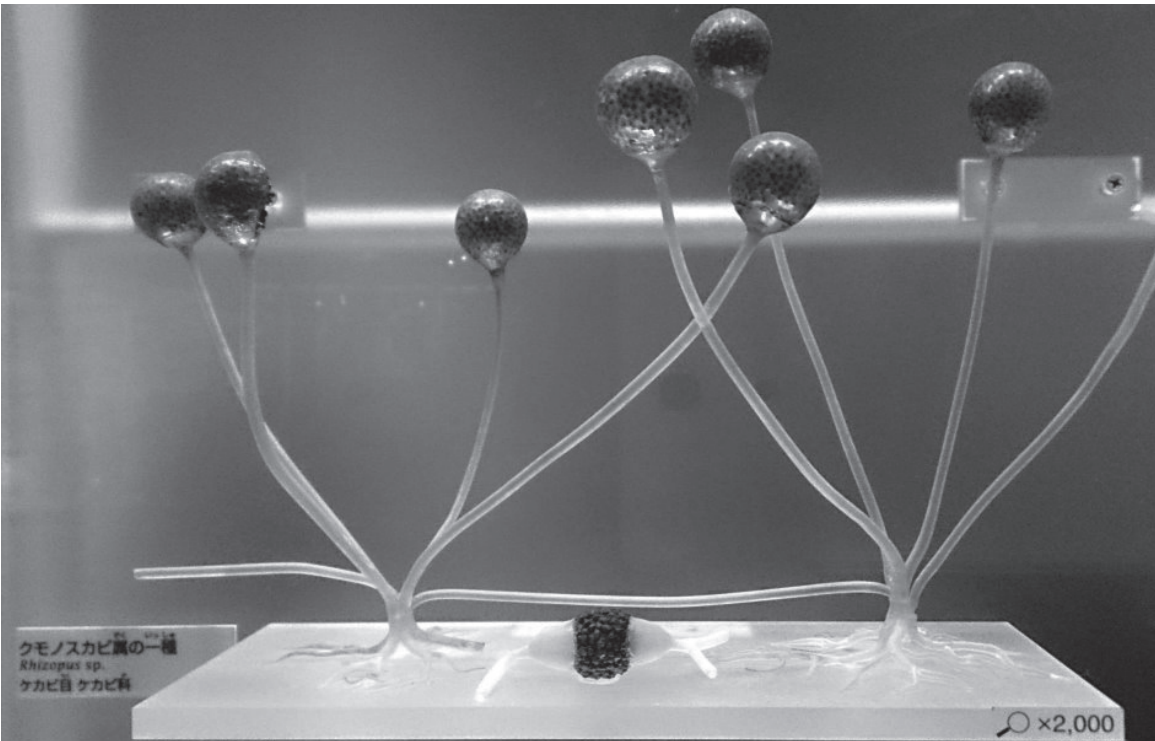
特に湿気と気温が高くなる梅雨や秋には、繁殖が活発になりますから、お客様に適切なアドバイスをしましょう。

ほとんどの真菌類は、①温度 20℃～30℃、②湿度 70% 以上、③酸素、④栄養（動物タンパク、植物繊維素など）の条件が整えば、どんなところでも活発に繁殖するといわれています。



カビは、栄養になる毛繊維や綿繊維などに酵素を出して分解し、養分として吸収して成長します。

特に綿のコートやジャケットに発生しや



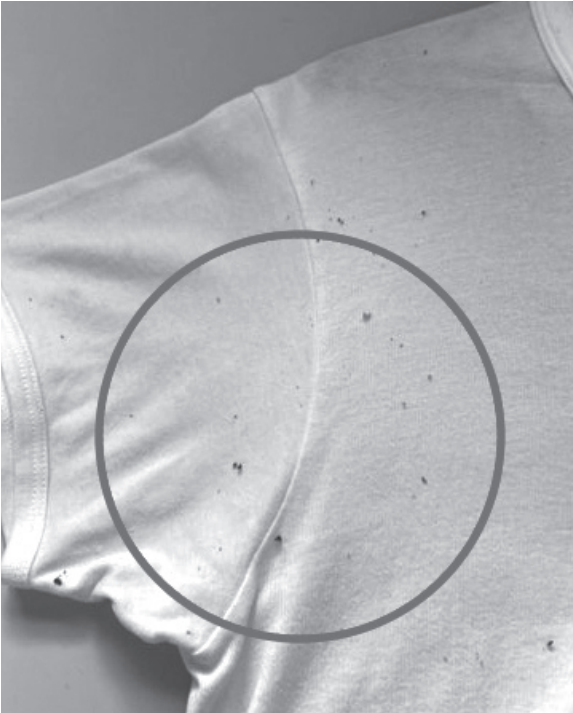
◀カビは胞子だけが発色するので色を落としても菌糸は残る

すいですから、ポリ袋を掛けたままなど湿気のたまりやすい状態にしておけば、クリーニング後であろうと、繁殖し染料を分解して脱色事故になったりする場合もあります。

【カビ対策】

- ①除湿剤を利用する
- ②乾燥した日にクローゼット内を換気する
- ③詰め込みすぎない
- ④通気性のあるカバーを使う
- ⑤寝具などの下にスノコを敷いて置く
- ⑥繊維製品を汚れが付いたまま保管しない！

カビが発生した場合は、クリーニングでカビの色は落とすことはできますが、カビ



が生地に与えてしまったダメージを修復することはできません。

カビによる繊維製品の事故は、脱色、着色、損傷といった現象を引き起こします。脱色事故については、カビ菌が成長する際に養分となる繊維を分解吸収するために発するある種の酵素によって、染料が分解するのではないかと推定されます。



TEXTILE[®]

ARE

一般社団法人

日本テキスタイルケア協会

CINET 国際テキスタイルケアコミッティー会員

繊維製品についてのお困り事を入力

Q検索

RSS

facebook

JPN ENG

トップ

協会について

ニュース

データベース

出版物・試験布

お問い合わせ

http://www.textilecare.jp

月額 880 円で事故解析など大量データをいつでもキーワード検索して無制限に利用できます

トピックス

事故解説

トラブル事典

海外情報

研究レポート

消費者アドバイス

事故解説

伸縮・変形